

各関係機関団体の長 }
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成29年度病虫害発生予報第12号(3月)について

このことについて、病虫害発生予報第12号を発表したので送付します。

予報第12号

いもち病、もみ枯細菌病の対策は、種子消毒の徹底から始めましょう！

本年度12～2月に平成29年産水稻種子(県内10品種、225地点)のいもち病保菌率調査を実施した結果、平均保菌率は**0.26%**(28年産0.63%、27年産1.48%、26年産1.44%、25年産0.63%)でした。また、もみ枯細菌病保菌調査(県内10品種、73地点)の結果、**17地点(23.3%)**で保菌が確認されました(28年産5.1%、27年産6.3%、26年産12.9%、25年産12.9%)。

いもち病、もみ枯細菌病の主な伝染源は保菌種子です。塩水選や種子消毒による種子段階での予防対策に努め、育苗管理を適切に実施し、本田へのこれら病原菌の持込防止に努めましょう。

なお、QoI剤耐性のいもち病菌が確認されているため、適切な防除薬剤を選択しましょう。

具体的な防除対策は、県ホームページに掲載している『平成30年度版病虫害・雑草防除の手引き』を参考にしてください。

URL：<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/30tebiki.html>



<予想される向こう1か月の天候（平成30年3月3日～平成30年4月2日）>

暖かい空気が流れ込みやすく、向こう1か月の気温は高い見込みです。

気圧の谷や湿った空気の影響で、向こう1か月の日照時間は平年並か少なく、降水量は平年並か多い見込みです。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間（数値は予想される出現確率）

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低20 並30 高50% 高い見込み	少20 並40 多40% 平年並か多い見込み	少40 並40 多20% 平年並か少ない見込み

（福岡管区气象台 平成30年3月1日発表発表抜粋）

3月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (3月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
冬春イチゴ	うどんこ病 ハダニ類	少 並	少 やや多	並 並
冬春ナス	すすかび病	少	やや少	並
茶	カンザワハダニ	やや多	やや多	多

※茶のカンザワハダニ発生量（現況）は、裾葉での発生量

【野菜：冬春イチゴ】

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。

発病株率 0%（平年 0.39%、前年 0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～＋）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病果や罹病葉の早期発見に努め、見つけ次第速やかに取り除く。

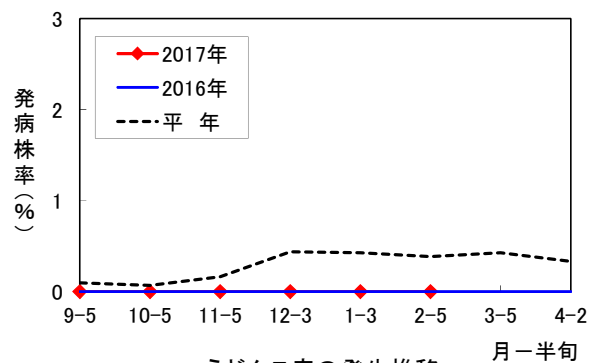
イ 収穫後の果梗は、放置すると感染源となりやすいので、早めに取り除く。

ウ 病勢が進展すると防除が困難となるため、初期防除を徹底する。

エ 古葉かき後、葉液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

オ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

カ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p5の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



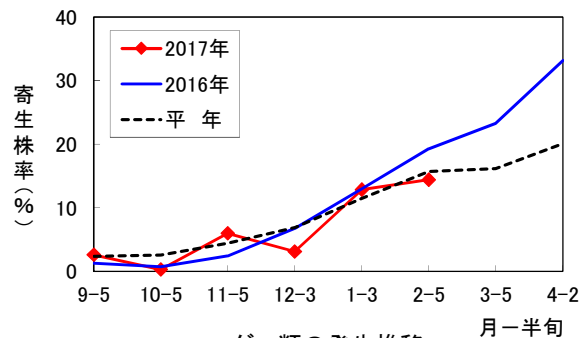
2 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発生量は平年並（±）であった。



寄生株率 14.4% (平年 15.7%、前年 19.3%)

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている(±~+)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 하우스内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。除草した雑草や摘葉した葉はハウス内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し処分する。
- イ 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。なお、防除は摘葉後に行うと効果的である。
- ウ 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、気門封鎖剤も含めて異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- エ 天敵を利用する場合は、薬剤の選定に留意する。
- オ 親株についても防除を徹底する。

【野菜：冬春ナス】

1 すずかび病

(1) 予報の内容

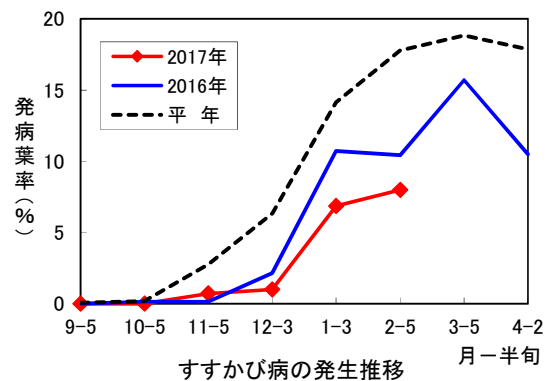
発生量：平年よりやや少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

発病葉率 8.0% (平年 17.8%、前年 10.4%)

イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている(+)



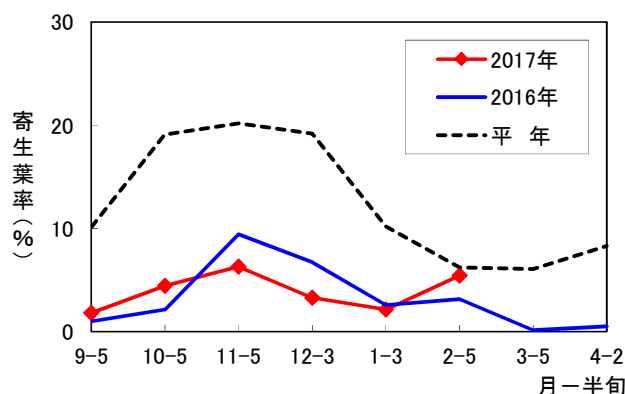
(3) 防除上注意すべき事項

- ア 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理に努める。
- イ 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。
- ウ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- エ 病勢が進展すると防除が困難となるため、初期防除を徹底する。
- オ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- カ すずかび病の防除薬剤の中には天敵に悪影響を及ぼすものがあるため、天敵を利用している場合は、薬剤の選定に留意する。

【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	現況 (発生量)	3月の発生予報 (発生量)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春イチゴ 灰色かび病	並	やや多	多	<ul style="list-style-type: none"> ・適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。 ・罹病果や罹病葉は、見つけ次第速やかに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・株元まで薬剤がかかるよう、丁寧に薬剤散布する。
冬春ナス 灰色かび病	やや少	並	並	<ul style="list-style-type: none"> ・適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。 ・罹病果や罹病葉は、見つけ次第速やかに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。

作物名 病害虫名	現況 (発生量)	3月の発生予報 (発生量)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
野菜共通 ミナミキイロア ザミウマ	並	並	多	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウス内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。 ・葉裏への寄生が多いので、散布ムラがないように散布する。また、多発した場合は、約1週間後にもう一度薬剤散布を行う。 ・同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。 ・天敵を利用している場合は、天敵への影響を考慮して薬剤を使用する。



【茶】

冬春ナスにおけるミナミキイロアザミウマの発生推移

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生時期：平年よりやや早

発生量：平年よりやや多、前年より多

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、裾葉での発生量は平年よりやや多かった（±～+）。

イ 裾葉での越冬後第1世代孵化幼虫の発生ほ場率は、平年より高く、発生時期は平年よりやや早い（±～+）。

（裾葉）

寄生葉率 3.4% (平年 2.7%、前年 1.2%)

50葉当たり虫数 4.5頭 (平年 4.0頭、前年 2.6頭)

発生ほ場率 60% (平年 45.8%、前年 40%)

孵化幼虫の発生ほ場率 40% (平年 15.4%、前年 30%)

※ 平年値は、2016年の数値を閾値として除外した値。

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されており、今後の孵化および生育の速さは、ほぼ平年並と予想される（±）。

(3) 防除上の注意

ア 裾葉を中心に発生状況をよく観察し、越冬成虫の寄生葉率が2%以上である場合は、成虫、幼虫、卵に効果の高い薬剤で速やかに防除を行う。

イ 春期の基本防除は、孵化幼虫の発生初期をねらって行う。

孵化幼虫の発生初期は、例年平坦地で3月中旬、山間地で3月下旬が目安であるが、防除適期を外すと後で多発を招きやすいので、必ず園の発生状況を見ながら防除を行う。

ウ 薬剤は、寄生の多い裾葉・葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

エ 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、気門封鎖剤も含めて異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

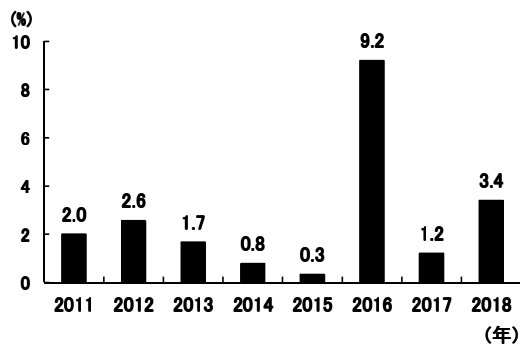


図1 裾葉での寄生率

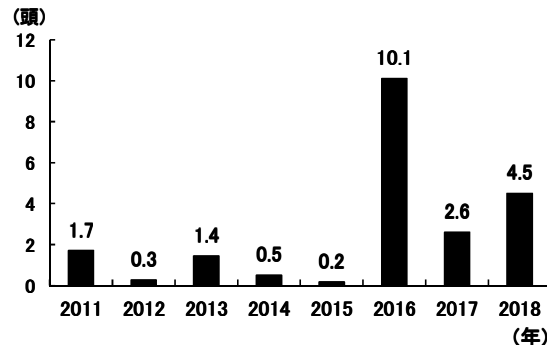


図2 裾葉50葉当たりの寄生虫数

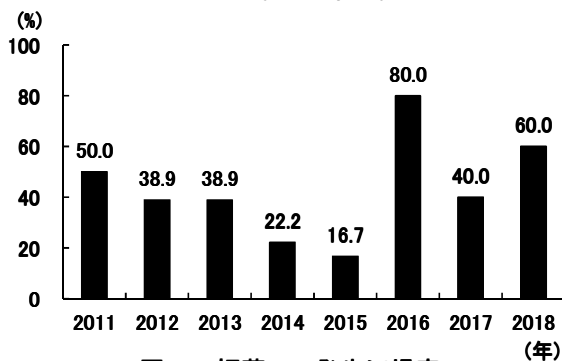


図3 裾葉での発生ほ場率

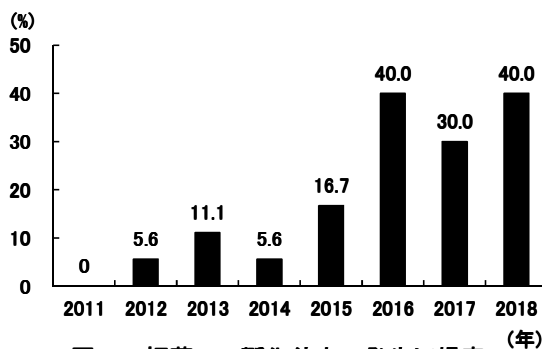


図4 裾葉での孵化幼虫の発生ほ場率

農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

○有効期限切れの農薬は使用せずに、産業廃棄物として処分する。

2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフト低減ノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しています。

携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと、病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。



福岡県病害虫防除所